（仮称）

調布市スマートシティビジョン（中間とりまとめ）

2025年12月時点

目次

1 はじめに

- 地域の活力を高めていくために P.4
- 世の中の動きや変化 P.5
- （仮称）調布市スマートシティビジョンの策定に向けて P.6

2 「共創のまち」のありたい姿

- 「共創のまち」のありたい姿 P.9

3 「共創のまち」を考える上で、大切にすべき視点

- 「共創のまち」を考える上で、大切にすべき視点 P.11
- 大切にすべき視点 ①～④ P.12

4 分野ごとの共創イメージ

- 分野ごとの共創イメージ P.17

5 共創のまちづくりを効果的・効率的に進めていくために

- 共創のまちづくりを効果的・効率的に進めていくために必要な視点 P.19

はじめに

地域の活力を高めていくために

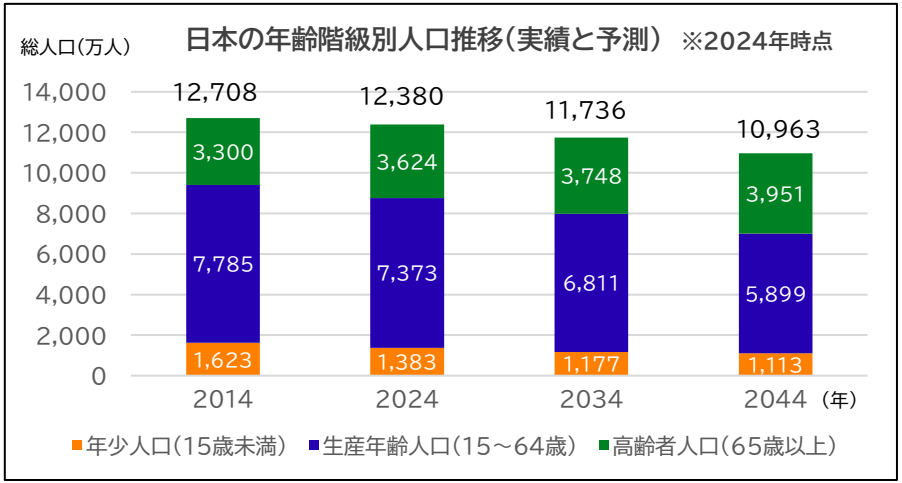
日本の総人口は2008年をピークに減り続けています。人口減少と少子高齢化が進んでいく中、地域の活力を高めていくためには、行政以外にも多様な主体（企業、大学、市民など）が自律的に活動し地域に貢献していくことが必要です。

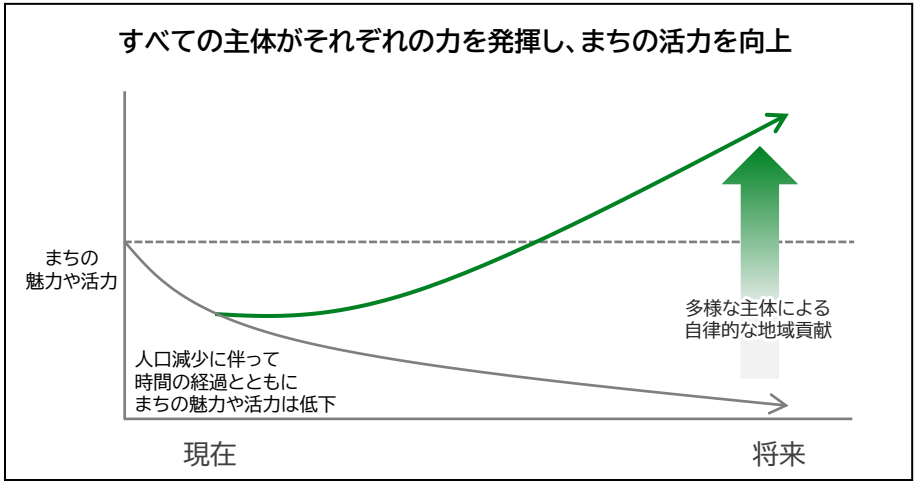
日本の人口推移

日本の総人口は2014年からの10年間で約340万人減少しており、その中でも生産年齢人口（15～64歳）は約410万人減っています。一方で、高齢者人口（65歳以上）は約320万人増え、総人口の29.3%を占める過去最高の割合となりました。そのほか、出生数についても、政府の予測を上回る速さで減少しており、今後も人口減少や少子高齢化はますます進んでいくと予測されています。

地域の多様な主体（企業、大学、市民など）の役割

人口が減少していく中、地域を創り、支えていく（地方創生）ためには、行政以外の多様な主体（企業、大学、市民など）が、その力を最大限に発揮する必要があります。そのためには、まず、それぞれが、時代の変化に適合しながら、その価値を高めていくことが重要です。そのうえで、地域の一員として、地域住民をはじめ、他の主体を巻き込みながら、地域のために進んで行動することが期待されています。





出典：地方創生2.0基本構想
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_chihousousei/pdf/20250613_honbun.pdf

世の中の動きや変化

私たちの暮らしや働き方は、今、大きく変わろうとしています。AIやデジタル技術が広がり、環境にやさしい社会を目指す動きが進んでいます。便利さだけでなく、心の健康や皆が安心して暮らせることも大切です。

持続可能性（SDGs）

- SDGs（エスディージーズ）とは、国連が掲げた、持続可能な社会を実現するための目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

出典：外務省　SDGsとは？

調布市の取組

- 共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため、**「パラハートちょうふ」**のキャッチフレーズを掲げ、さまざまな分野で取組を展開しています。

DX（デジタル変革）

- DX（デジタル変革）とは、AIやIoTなどのデジタル技術を暮らしや仕事に取り入れて、人々の生活をより豊かで便利なものに変えることです。

出典：総務省　自治体DX推進計画

調布市の取組

- 調布市基本構想に示された調布市の将来像を実現するツールとして、**「調布市デジタル化総合戦略1.0」**を策定しました。

スマートシティ

- ”スマートシティ”は、行政や企業、大学などが持つデータや、ICTなどの新しい技術を効果的に使って、都市をマネジメント（計画、整備、管理・運営）することで、住民や企業、街を訪れる人が、より良いサービスを受けたり、質の高い生活を送ることができる都市のことです。
- また、国はこうした“スマートシティ”の取組を、未来の社会“Society 5.0”の実験の場として位置付けています。“Society5.0”が目指すのは、「一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」の実現です。“スマートシティ”はそのために重要な取組といえます。

調布市の取組

- 令和3年6月，調布市と企業・大学・NPO法人で「調布スマートシティ協議会」を設立し，現在10団体で活動しています。

出典：内閣府HP
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/index.html

ライフスタイルの変化

- ここ数年で、私たちの暮らし方や働き方は大きく変わりました。
  - 働き方：リモートワークが当たり前になり、時間や場所に縛られない働き方の広がり。
  - 暮らし：オンライン診療、キャッシュレス決済など、デジタル技術が生活のあらゆる場面に入り込んでいます。
  - 価値観：「物の豊かさ」だけでなく、「心の豊かさ」を重視する人が増えています。

GX（グリーン　トランスフォーメーション）

- 化石燃料中心の経済・社会のルールや構造を、クリーンエネルギー中心のものに変化させ、エネルギーの安定供給と経済の成長、CO2などの排出量削減の3つを同時に実現することを目指すことです。

出典：経済産業省　HP

調布市の取組

- 2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指して、**調布市ゼロカーボンシティ宣言**を行いました。

（仮称）調布市スマートシティビジョンの策定に向けて

調布市はこれまで、市の基本構想・基本計画に「共創のまちづくり」を掲げ、さまざまな分野で、大学や企業等の技術やノウハウを生かした先駆的な取組を行ってきました。

- 共創のまちづくりをより効果的に進めるために…
- さまざまなプレーヤーがまちづくりに関わりながら、幅広いアイデアや技術を生かせるように…

企業・大学・行政・市民…まちづくりに関わる全てのプレーヤーが協力し、より快適で誇れるまちにしていくために、必要なことを整理し、共有する

- “産学官民連携”で目指すまちのありたい姿
- 目標達成に向けた行政の役割、他のプレーヤーに期待する役割

（仮称）調布市スマートシティビジョン策定

調布スマートシティ協議会

先端技術を活用し、市民の利便性の向上、まちの社会的課題の解決を図ることを目的に、令和3年6月に設立され、現在は10団体で活動しています。

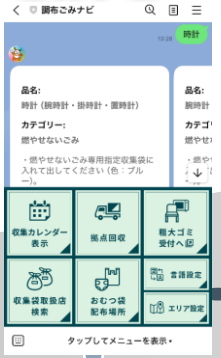
こんな取組を実施中♪

お出かけ情報サービス

- 地域のイベントやお店の情報を一つのデジタルマップに集約
- 電車・バスなどの公共交通やシェアサイクルを使った各スポットまでの経路検索も可能

調布ごみナビ

電気通信大学×調布市×Borzoi AI㈱



AI（人工知能）がごみの分別方法をLINE上で案内するなどの便利な機能を備えたサービス。Tokyo区市町村DXaward2024行政サービス部門大賞受賞。他自治体への横展開に向け取組実施中。

これまでの取組を踏まえて、（仮称）調布市スマートシティビジョンを定め、まちづくりに関わるさまざまなプレーヤーが同じ方向を目指し、協力してまちづくりを進めることにつなげていきます。

取組の積み重ね → 土台づくり → 推進・発展

（仮称）調布市スマートシティビジョンの策定に向けて

調布市はこれまでも、基本構想・基本計画において目指すまちの将来像 ＜ともに生き ともに創る 彩りのまち調布＞ を掲げ、その実現に向けた取組を進めています。

今回、企業・大学・行政・市民などのさまざまなプレーヤーが連携・協力しながら、基本構想・基本計画に掲げる「共創のまちづくり」をこれまで以上に推し進めていくために、共創のまちのあり方や、各取組を進めていく上で大切にすべき視点を改めて整理しました。

策定に当たっては、新たな市民参加ツールとして実証運用中の「ちょうふLiqlid（リクリッド）（市民参加型合意形成プラットフォーム）」を中心に、対面型のワークショップ等を組み合わせながら、広く市民のみなさんへ、この取組をお知らせし、アイデアやご意見を集めています。
また、企業・NPO法人や大学の視点として、「調布スマートシティ協議会」の構成団体のみなさんからもご意見をいただきました。

ちょうふLiqlid（リクリッド）

特に、子ども・若者、子育て世代の方々をはじめ、より多くの市民のみなさんに、アイデアやご意見を寄せていただくため、時間や場所にとらわれず、誰でも気軽に参加できる方法として、ちょうふLiqlidを試験的に導入することにしました。

ちょうふLiqlid でできること・・・

- アイデアや意見を集めているテーマに関する「情報」を知ることができます。
- 調布市からの質問について、自分のアイデア・意見を投稿できます。
- ほかの人のアイデア・意見を見て、「イイネ！」とリアクションしたり、コメントしたりすることができます。

ちょうふLiqlid
https://chofu-city.liqlid.jp/

調布スマートシティ協議会

＜構成団体＞
調布市、国立大学法人電気通信大学、
NPO法人調布市地域情報化コンソーシアム、
アフラック生命保険株式会社、京王電鉄株式会社、
NTT東日本株式会社、日本郵便株式会社、
鹿島建設株式会社鹿島技術研究所、多摩信用金庫、
株式会社東京スタジアム

先端技術を活用し、市民の利便性の向上、まちの社会的課題の解決を図ることを目的に、令和3年6月に設立され、現在は10団体で活動しています。
これまでも、構成団体の技術やノウハウを生かしながら、調布市の“スマートシティ”に向けた取組を市と共にリードしてきました。
現在協議会では、産学官民、立場の異なる団体が「チーム」としてまちづくりを進めていくために必要となることなどを整理・検討しています。

「共創のまち」のありたい姿

「共創のまち」のありたい姿

“スマートシティ”が表す「まち」は、地域によってそれぞれ異なります。
調布市は、(仮称)調布市スマートシティビジョンにおいて描く「共創のまち」を、目指すべき“スマートシティ”と考えています。

共創でつくりあげる「まち」の状態

市民のニーズ を捉えたより便利で快適な暮らしにつながるサービスや取組など 新たな価値が生まれ続けるまち

調布の“まち”に関わる「産(企業)・学(大学等)・官(市)・民(市民)」すべてのプレーヤーが、このまちの中で、それぞれの営みを積み重ねていくことに誇りを感じ、それぞれの営みにより、将来に渡ってまちの魅力や活力が増していきます。

データや技術の利活用により、変化していくまちの状態が“見える化・共有化”されていて、さまざまな取組やサービスの“ユーザー”である「市民」のニーズが的確に捉えられることで、より便利で快適なまちを目指した新しいサービスや取組がつくり出される好循環が生まれています。

「共創のまち」の実現に向けた進め方

企業や大学等は、それぞれの持つ技術やノウハウを生かし、まちの課題の探求やその解決に向けて取り組むことで、新たな価値を創造し、さらに成長を続けます。

市民は、“どんなまちにしていきたいか”を積極的に発信し、今の、そしてこれからのまちづくりが自分たちの望むまちにつながっているか、自分たちには何ができるか考え、行動します。

市は、幅広い市民がまちづくりに参加する環境を整え、企業や大学等の取組が、まちの課題を解決し、まちの価値を高めることにつながるようにコーディネートします。

各プレーヤーが連携して それぞれの役割を担い ながら、持続可能で発展する まちを支える

「共創のまち」を考える上で、大切にすべき視点

「共創のまち」を考える上で、大切にすべき視点

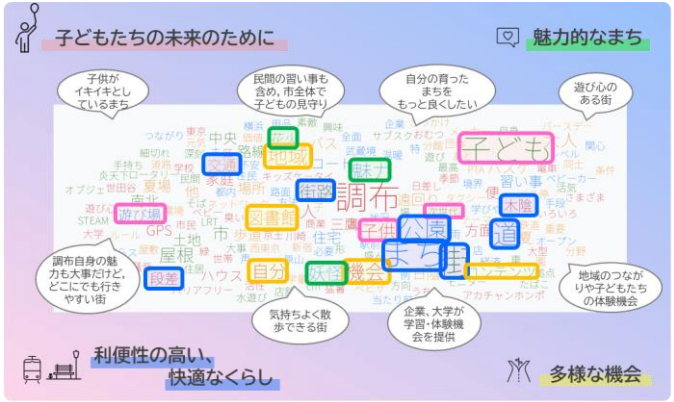
調布市が目指す「共創のまち」は、行政だけでは持ち寄ることのできないアイデアや技術・ノウハウを持つさまざまなプレーヤーと連携・協力しながら、共につくり上げていく「まち」です。

新たな技術の活用を含め、少し先の未来を見据えたときに、「共創のまち」の実現に向けて、さまざまなプレーヤーを巻き込みながら一緒に進んでいくためには、まちづくりに関わるプレーヤーと、大切にすべき4つの視点を共有することが重要です。

大切にすべき4つの視点

- 子どもたちの未来のために
- 人が集まる魅力的なまち
- 利便性の高い、快適なくらし
- 多様な人材が生きる機会

＜参考＞
ちょうふLiqlidに寄せられた意見・アイデアをワードクラウドで分析



R7年7～8月、ちょうふLiqlidに問い（15年後、どんなまちになっていたら魅力的？その時、どんな風にまちと関わりたい？）を設定し、図のような分析結果が得られました。
これらの視点を踏まえて、具体的にどのような取組が必要か、また、その取組を実現していくために、企業、大学、行政、市民それぞれの立場ではどんなことができるか、といった産学官民連携で進めていくまちづくりについて深掘りをしています。

※ ワードクラウド：文章中のキーワードを使用された回数に応じて大きく表示することで、直感的に捉えることができる表現方法。

大切にすべき視点① こどもたちの未来のために

安全・安心に暮らせるまちであることや、持続可能なまちづくりをしていくことが、子どもたちの未来を守ることにつながります。

市民の声
…ちょうふLiqlidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

子どもがたくさん住んでいる街だったら、活気があり、魅力的だなと感じます。
匿名 5

市全体使える見守りネットワークがあれば、安心して子育てできると思います。
匿名 2

子どもの声が楽し気に響くまち（子どもが元気！、騒音みたいに思われないおもいやり、子育てしたいと思えるまち、という意味）
匿名 4

子どもがイキイキとしているまち
匿名 6

大人になって自分の育ったまちをもっと良くしたいと動ける人になっていたら、素敵だなと思います。
匿名 7

図書館や公園を学びと遊びの拠点にできたらいいな
匿名 3

調布市
…現状の認識や期待など

基本計画＜重点プロジェクト＞
安全・安心に暮らせるまち

災害に強いまち、地域防犯力の高いまちを目指し、市民の暮らしに安心感をもたらすことのできる都市の基盤づくりを進めています。

基本計画＜重点プロジェクト＞
調布の宝である子どもたちを応援するまち

地域で安心して子どもを産み、育てられる環境や、子どもたちが安心して学び、成長できる環境づくりを進めています。

中学生以上の若者ニーズ調査
子供や若者が希望を持てる市となるために取り組むべきこと
「学習・学び直しができる環境・機会の充実」が過半数

学びたいときに学べる環境が整っていることは将来の希望に繋がる！

市民意識調査 優先度ランキング（R6）
第1位 防犯対策 第2位 地震対策 第3位 風水害対策

安全・安心に関する項目が上位にランクイン！

デジタル活用による取組事例

- 避難所開設状況・混雑状況の配信
- 調布市公式LINE（情報発信、道路等の不具合報告）
- 認知症徘徊高齢者探知システム

調布スマートシティ協議会
…構成団体ではこんな取組を実施してきました

あんしんコール実証事業

特殊詐欺の疑いのある通話をAIが判断。家族の声で本人に危険を伝えると同時に、離れて住む家族にも危険を通知！

eスポーツを起点としたインクルーシブな交流・体験機会の創出事業

eスポーツを活用し、福祉施設、子ども関連施設、地域のコミュニティ施設など、日頃交流する機会のない施設間をつなぎ、新たな交流の機会をつくる！

グリーンインフラの活用

グリーンインフラの活用について考えるため、崖線樹林地などの人が入りにくい土地をドローンや計測機器を使って調査！

【防災教育の日】での連携

タブレットと連動した、「水害から命を守る」ワークショップ！
災害伝言ダイヤルや公衆電話の使い方をレクチャー！

大切にすべき視点② 人が集まる魅力的なまち

人々や企業、さまざまな活動を行う団体に、魅力を感じて集まってきてもらえるようなまちであり続けるために、まちの魅力を高めるだけでなく、その魅力を発信していくことも重要です。

市民の声
…ちょうふLiqlidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

面白く暮らしを工夫することができる街であること
匿名 1

調布の魅力を発信し、行きたいと思えるコンテンツを増やしたい
匿名 7

散歩やピクニックが楽しめる場所になっていて欲しい。野菜や植物を育てることで緑のある街であってほしい
匿名 4

やったことのない新しい趣味などに挑戦できる
匿名 2

地元のイベント情報を手に入れて気軽に参加できる
匿名 2

歩くだけで楽しむことができる通り、商店街
匿名 2

調布市
…現状の認識や期待など

基本計画＜重点プロジェクト＞
にぎわいと交流のある活気に満ちたまち

利便性と快適性を兼ね備え、地域資源や特性を活かした、にぎわいと交流のある都市空間づくりを進めています。

基本計画＜重点プロジェクト＞
人と自然がおりなすうるおいあるまち

環境保全意識の高まりとともに、緑や水辺を守り、地域景観を活かしたまちづくりを進めています。

中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）が魅力的と感じている市民の割合
現状（R6）72.2% → 目標（R8）80.0%

目標達成に向け、年々増加傾向！

市民意識調査 調布のまちの魅力や個性・特色（R6）
第1位 都心への交通の便がよい
第2位 豊かな自然がある
第3位 日常の買い物が便利

生活のしやすさと自然環境の両立が、調布らしさとして評価！

デジタル活用による取組事例

- デジタルスタンプラリーイベント
- 「映画のまち調布」PR映像「ガチョシアター」

調布スマートシティ協議会
…構成団体ではこんな取組を実施してきました

お出かけ情報サービス

地域のイベントやお店の情報を一つのデジタルマップに集約！
電車・バスなどの公共交通やシェアサイクルを使った各スポットまでの経路検索も可能！

イベントスタンプラリーやチケット（半券）優待サービスによる市内回遊の促進

同日に開催されるイベントをつなぐスタンプラリーや、スポーツ観戦チケットを使った優待サービスの実施などで、イベントを訪れた方にもっと調布を満喫してもらいたい！

グリーンインフラの活用【再掲】

グリーンインフラの活用について考えるため、崖線樹林地などの人が入りにくい土地をドローンや計測機器を使って調査！

大切にすべき視点③ 利便性の高い、快適なくらし

新たな技術を生かしながら、より利便性の高いまちを目指すことと、誰にとっても快適な暮らしを提供することを両立させていく必要があります。

市民の声
…ちょうふLiqlidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

夏に水遊びのできる広い公園や屋根(日陰)のある遊び場がもっとあったらいいなあ
匿名 8

車いすでも走行しやすい街
匿名 3

交通の便が良い街が良いです。
匿名 3

ショッピングも季節の散策もしやすい街に。
匿名 3

高齢者の生きがいの場が欲しい
匿名 2

家族で過ごす場所がたくさんあるまち
匿名 2

日々の暮らしで困ったことを誰に聞けばよいかすぐわかるまち
匿名 1

調布市
…現状の認識や期待など

基本計画＜重点プロジェクト＞
誰もが自分らしく安心して住み続けられるまち

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる共生社会の充実や、健康づくり、高齢者・障害者支援を進めています。

住みよいまちと感じている市民の割合
現状(R6)94.4% → 目標(R8)95.0%

非常に高い水準で推移！

普段利用している道路が通行しやすいと感じている市民の割合
現状(R6)65.1% → 目標(R8)70.0%

目標達成には、もう一歩！

障害者の福祉に満足している市民の割合
現状(R6)70.5% → 目標(R8)75.5%

目標の75%に向けて、さらに心地よいサポートを届けます！

デジタル活用による取組事例

- 自動窓口受付システム
- 「自治体・医療機関等をつなぐ情報連携システム(PMH:Public Medical Hub)」先行実施事業
- ちょうふおやこ手帳アプリを通じた伴走型相談支援
- 高齢者人感センサー安否通報システム
- 北部地域デマンド型交通

調布スマートシティ協議会
…構成団体ではこんな取組を実施してきました

がん相談サポート事業

市民からがんに関わる悩み・困りごとを聞き、その悩みやニーズに合わせて、行政や民間のサービスや情報を案内する相談窓口を開設！

ごみナビの開発

ごみの分別に迷うものをAIが画像判別し、適切な分別方法を案内！

お出かけ情報サービス【再掲】

地域のイベントやお店の情報を一つのデジタルマップに集約！
電車・バスなどの公共交通やシェアサイクルを使った各スポットまでの経路検索も可能！

大切にすべき視点④ 多様な人材が生きる機会

まちの中で、幅広い体験・経験ができること、人々や団体それぞれの持つ強みや良さを生かせる場があることは、みんなで創り上げていくまちの「チカラ」になります。

市民の声
…ちょうふLiqlidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

市民同士の交流が盛んなまちになってほしい！
匿名 2

多世代が一緒に交流する場
匿名 7

企業、大学がもっと地域や子どもたちにオープンになって、さまざまなことを学習、体験できる機会が提供されているといい
匿名 4

より良くするための意見を出し、それが自分たちの活動や子どもたちに良い形でかえってきたら、嬉しいと感じて関わってくれる人は少なくないと思う
匿名 3

大学や企業が参加・運営できるイベントづくり
匿名 1

調布市
…現状の認識や期待など

基本計画＜重点プロジェクト＞
にぎわいと交流のある活気に満ちたまち

利便性と快適性を兼ね備え、地域資源や特性を活かした、にぎわいと交流のある都市空間づくりを進めています。

基本計画＜重点プロジェクト＞
調布の宝である子どもたちを応援するまち

地域で安心して子どもを産み、育てられる環境や、子どもたちが安心して学び、成長できる環境づくりを進めています。

【市民意識調査】市政・まちづくりに参加したいと思う市民の割合 57.2%（R6時点）

みんながまちづくりの主役！と思えるように。

【市民意識調査】「まちに親しみや愛着を感じている」市民の割合 78.3%（R6時点）

高水準だけど、もう一歩！

デジタル活用による取組事例

- ちょうふLiqlid
- チャット相談支援事業（子ども・若者と家族を対象）

調布スマートシティ協議会
…構成団体ではこんな取組を実施してきました

CDC（調布・デジタル・長寿）事業

デジタルが苦手な高齢者の不安を解消！
オンラインも活用した運動や食事等に関する健康教室を通じて「つながり」をつくることで、健康寿命を延ばすことを目指す！

超小型バイオガスプラントを活用した地域資源循環実証モデル事業
給食残菜から液体肥料とエネルギーを生成するプロセスを見学し、資源循環を実感しながら学ぶ！

ローカル5G 実証ハウス栽培トマトの活用
先端技術を活用して栽培したトマトを学校給食で地産地消！

シニア向けスマホ講習会
デジタルに馴染みのない高齢者にもスマートフォンの利用が広がることで、情報へのアクセスがスムーズに！

分野ごとの共創ビジョン

分野ごとの共創のイメージ

大切にすべき4つの視点を踏まえて、さまざまな取組が相互に連動しながら展開されていくことで、ありたい「共創のまち」の実現につながっていきます。

まず、右に示す5つの分野について、企業や大学等の先端技術やノウハウを積極的に活用した共創に寄せる期待や、共創で創り上げていくイメージを掲載しています。

今後、各分野において、描いたイメージに向けて、市として取り組んでいくこと、まちづくりに関わるさまざまなプレーヤーに期待することなどを整理していきます。

あわせて、他の分野においても、先行して掲げた5つの分野のように、デジタル技術やデータを利活用することで、どんなことが解決できるか、期待できるかを検討し、市全体として「共創のまち」の実現を目指していきます。

安全・安心

- デジタル技術の活用により、「即時性」（すぐに）や「広域性」（周りの自治体とも連携しながら）の視点から、より安全なまちづくりにつなげていくことを展望
- 犯罪から市民を守っていくために、AI分析などの活用により、新たな犯罪手口を予測する「先回り対策」や、企業や大学の持つ最新技術の活用に期待

新たな移動・交通

- デジタル技術やデータの利活用により、どんな人が、どこからどこへ、どうやって移動しているかといった現状を的確に捉え、変化していくまちや人々のニーズ・状況に応じた移動・交通手段を適切かつ効率的に検討・確保

産業・観光

- 観光スポットや集客施設等のさまざまなコンテンツをつなぎ、マーケティングの視点で、市内外の人々の市内回遊・消費を促すためのEBPMを実現
- 大学や企業の持つ技術やノウハウと、地元の商店街などが抱える地域の課題を結びつけ、課題解決や新たな価値・サービス創出

市民の参加機会

- 特に、これからのまちづくりの担い手である子ども・若者をはじめ、幅広い市民がまちづくりに参加する機会をデジタルツールの活用により創出

ゼロカーボン

- ゼロカーボンの達成は行政だけでは不可能であり、市民や市内事業者の行動変容を促すことが重要。省エネや再エネに関する取組を進めることにより、経済的なメリット・地域への貢献といった「価値」を実感できるしくみが必要
- エネルギーの利用状況の「見える化」を実現するマネジメントシステムの構築により、エネルギーの地産地消や地域内での利用につなげていくことで、災害への対応力向上や豊かな暮らしも実現

※ EBPM…統計データや分析結果などの客観的データに基づいて、政策を立案すること。

共創のまちづくりを効果的・効率的に進めていくために

共創のまちづくりを効果的・効率的に進めていくために必要な視点

市が、組織目標や運営方法も異なるプレーヤーと、効果的かつ効率的に連携・協力しながらまちづくりを進めていくためには、目指す方向の共有だけでなく、どのように進めていくかについても整理し、市全体として取り組んでいける土壌をつくっていく必要があります。

しくみづくり

- 企業・大学等の技術・ノウハウとまちの課題のマッチングや、課題そのものの探求にさまざまなプレーヤーと共に取り組むことが可能になる仕組み
- 共創の取組をどのように評価し、次の取組にどのように生かすのかを可視化し共有
- 地域の課題解決と新たな価値の創造を両立できるよう、さまざまなプレーヤーが対等に議論しながら、中立的な立場で、各取組を推進できる体制の検討

情報の取扱い

- 企業や大学等の課題探求・新たな価値創造の動きにもつながるような、まちのデータ・情報の利活用

共創マインドの醸成

- 企業・大学・市民などそれぞれのプレーヤーが、まちづくりを「ジブンゴト」として捉え、関心を持って関わることのできる機運
- 既存の政策分野にとらわれず、分野をまたぐ課題の設定やその解決に向けて、連携しながら取り組む意識
- 共創の取組の達成感や意義を共有し、職員間でポジティブな連鎖を創出